

## 古典紹介・解説

### 九成宮醴泉銘②

佐々木香流

九成宮醴泉銘の碑文は全二十四行、毎行五十字、全一一〇八文字です。碑文上部に篆額を冠し「九成宮醴泉銘」の六文字が陽刻されています。九成宮の特徴は従長、胴絞し、スッキリした美しい楷書です。

今月号は右払いの字が多く見られますが、とても暢びやかに引かれています。楷書の基本と言われていますので、原帖をよく観察し、起筆の角度、横画、縦画の太さ、転折、右払いなど丁寧に書き進めましょう。法帖をお持ちでない方は早目に入手されると良いと思います。

### 蘭亭序②

高橋 素香

現在伝わっている蘭亭序の跡本で書を習う立場から特にすぐれたものとして

- ① 「張金界奴本」
  - ② 「神龍半印本」
  - ③ 「定武本」
- 三種類

初学の習字テキストとして「餘清齋帖」所収を底本として「秋碧堂帖」が優れています。今回学ぶのは②の八柱の第三本です。見やすく、習いやすい原本です。

それぞれ併せて参考にされると良いです。表現が自然で芸術的に高い境地にあります。結体・用筆の微妙な変化があります。

たとえば作品中に「之」の文字が二十字も用いられていますが、同じものはない程です。大変興味深い課題ですので、たくさん書いて早く慣れましょう。